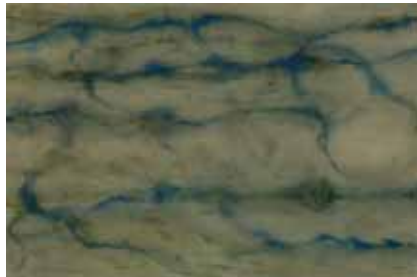


西荻の数寄和ギャラリー「絹に描く 斉藤典彦」展で
V T S (対話型鑑賞)のイベントをしました



展覧会DM作品 斉藤典彦「蒼山」

現代日本画家である斉藤典彦先生。表具屋のギャラリー空間で、絹に描かれた作品が並びます。抽象画である先生の作品は、じっくりと観る中で、ふつふつと感動が沸き起こります。じっくりと観ること、そして他の人の観方を聴き、自分の観方がどんどん変化していくV T S (対話型鑑賞)と、たいへん合った作品のように感じ、抽象画のV T Sの実践にはじめてトライしました。

今回ファシリテーター(ナビゲーター)を務める私は、現在、学び中ですから、拙いV T Sになることを覚悟の上ですが、ご参加いただいた方には、作品と、そして一緒に鑑賞する人たちとの大切な一期一会の場です。

まず何が大切かと考え、鑑賞する最初の入口で、楽しそうだな と思って貰えるには、どうしたらよいか?何か工夫できることはないか?と悩みました。

以前に、写真の作品はV T Sとして、扱いやすいように聞いた記憶がありました。鑑賞作品としての写真ではありませんが、V T Sのウォーミングアップ用に搬入時の写真を準備しました。

「これから、みなさんで、V T S (対話型鑑賞)を楽しんでいただきたいと思います。まず、この写真をじっくりと観てください。ご覧になって、何か気づかれたことや感じられたこと、この中で何が起きているのか?教えてください。V T S (対話型鑑賞)は、まずじっくりと観て、感じていただいたことや、気づかれたこと、発見されたことを話してもらいます。できましたら、手をあげて話してください。それを皆で聴き、また、じっくり観ます。観る。考える。話す。聞く。この繰り返しです。では、始めたいと思います。」



ご参加いただいた方が、観たいと思われた「絹に描く斉藤典彦」展の搬入時の写真は、なかなか興味深かったようでした。

写真を観ながら、この場のこと。何をしている人たちか。人の影などからライトの光、自然光など、この写真を撮った時間に話が広がります。様々な観方を聴きながら、自分の観方が変化していくことにも気づかれます。

新たな発見という言葉に刺激を受けて発言される方もおいでですが、発見ではないのですが...と前置きをされる方もおいででした。ファシリテーターの私のことばがちょうどいい強さで届いたらいいなと思います。強すぎて驚かすのではなく、弱すぎて届かないのではなく...。福先生から何度もお聞きしたキャッチボール（受け取ることの大切さ）を思わず思い出しました。

さて、いよいよ本画をみていただきます。今回の展示作品のなかで、一番大きな4枚組の作品のなかの2点を選びました。近づいたり、離れたり、じっくりと観ていただきます。



本画では、近づいたり、離れたりすることで、観え方がずいぶんと変わります。絹に描かれた作品は、光により観え方が変化します。じっくりと観る中、様々な発見があります。

みなさんの発言が少し止まったときに、どうしようか?と思い、待ちながら、今までに皆さんから出てきた観方を繋げながら話します。すると、新たな発見へと繋がります。こんなことを言ってもよいのかな?と悩んでおられるように見える方も、他の人の発言を聴きながら、様々な観方のできる作品に、自分の観方を話していただきます。大作2点を鑑賞するなかで、どんどんと発言が活発になります。

鑑賞会終了後、V T Sについてお聞きすると、自分だけの観方ではなく、いろんな人の観方をきき、たいへん豊かな鑑賞ができて、楽しかったとのことでした。

ギャラリーでは、まず作品があります。本画であり、たいへん贅沢なV T Sが出来ます。参加される人に合わせて作品選びをさせていただく訳ではありませんが、楽しんでいただけるような工夫をその時々に行いたいと思います。